

実務経験のある教員による授業科目一覧 2024(令和6)年度

	担当教員名	授業科目名	履修 学年	単位数	配置学部 または学科	科目 区分	方法	授 業 内 容
1	アント、フランシスコ	人間学Ⅱ	1～4	2	音楽文化学科 演奏学科	教養	講義	現職カトリック司祭としての豊富な司牧経験を活かし、宗教学・聖書学について講義を行う。ローマ・カトリックの教えと聖書における基礎知識を学ぶとともに人間としての在り方、自分の中にある宗教的な心の動きや、自らの精神性を高めるキリスト教的霊性を学ぶ。
2	岡野泰子	教育心理学	2～4	2	音楽文化学科 演奏学科	教養	講義	臨床心理士および公認心理師の経験を活かし、人間理解に欠かせない学問領域の一つである心理学を学ぶ。この授業では、学習理論を中心とした教育心理学の基礎知識を学び、心理学的な視点をもって学習を促進する指導法や対応法を考える力を習得することを目的とし、児童・生徒の発達と学習過程に関する知識を身に付け、それをもとに指導法や対応法を考える力を習得する。
3	大島衣恵	音楽史Ⅳ	2	2	音楽文化学科 演奏学科	共通 必修	講義	シテ方能楽師として世界各地で演じた経験をもつ教員が授業を行う。日本の伝統音楽と諸民族の音楽を取り上げ、それぞれの特徴・特性を比較したりしながら、音楽・芸能の多様性に触れる。
4	三宅悠太	楽曲分析Ⅱ	3～4	2	音楽文化学科 演奏学科	共通 選択	講義	作曲家として幅広く活躍する経験をもつ教員が授業を行う。音楽理論や和声学習、それらを基にした楽曲分析が、単に知識や机上の作業に留まるのではなく「実際の演奏にどう関わっていくのか」を主眼に授業を行う。例えばJ.S.Bachの楽曲分析では、音楽を構成している諸要素(旋律・和声・リズム・形式など)の分析を通して楽曲自体が内包する音楽のエネルギー推移やベクトルを発見することで、より自然かつ必然性のある演奏表現を追究していく。機能と声作品における音楽の緊張弛緩の推移を知覚感受することは、調性のあり方が多様化し無調音楽へと繋がっていく近・現代作品にも通ずる大切な根幹部分であるため、本授業ではバロック～ロマン派の楽曲を中心に扱う予定である。
5	福原之織	音楽科教育法Ⅰ	2	2	音楽文化学科 演奏学科	共通 選択	講義	小学校管理職、中学校・高等学校教諭(音楽)としての経験を活かし、音楽教育の意義についての考察と音楽教育の歴史的概観をを踏まえ、学習指導要領を軸に音楽教育の実践に必要な知識と技能を身につけるための講義と演習を行う。
6	福原之織	音楽教育概論	1	2	音楽文化学科	専門 選択	講義	中学校・高等学校教諭(音楽)としての経験ならびに小学校での音楽科指導経験を活かし、授業を行う。本授業では、それぞれの音楽体験をふりかえりつつ、人と音楽との関わりや、音楽教育の意義について考察し、自分なりの音楽教育研究の課題をもてるようになることを目的とする。
7	壬生千恵子	音楽総合概論	1	2	音楽文化学科	専門 選択	講義	この授業は、音楽文化学科の総合プログラムでの学びを理解するための概説にあたる。音楽文化学とは何か、音楽学、音楽教育、創作、アートマネジメントなどを複合的に学ぶことによって、どのような学修デザインがあり、また、どのような学修の出口の方向性が期待できるのか、各々の学問的概念の基礎理解と共に、個々が自分の学びのプログラムを設計していく手助けとなる視点を複数得ることを目的としている。また、後半では、「考え・動き・取り組める」人材になるために必要な実践的態度を養い、音楽心理、音楽療法、音楽教育、舞台制作論、コミュニケーション理論など、関連する諸学問領域の在り方や学びの方向性についての理解を深める。音楽教育ワークショップの開催、文化財団管理職、国際音楽祭など、国内外の舞台制作・音楽活動プロデュース・劇場運営の実務経験をもつ担当教官が授業を行う。

実務経験のある教員による授業科目一覧 2024(令和6)年度

	担当教員名	授業科目名	履修 学年	単位数	配置学部 または学科	科目 区分	方法	授 業 内 容
8	島田美城	幼児教育原理	1	2	音楽文化学科	専門 選択	講義	幼稚園教諭として勤めた経験を踏まえて、教育や教職の意義、教員の役割、教育が果たす社会的役割や学校の制度的な意義、幼児の発達と必要な保育についてわかりやすく提示する。
9	島田美城	モンテッソーリ指導法Ⅰ	2	2	音楽文化学科	専門 選択	講義	モンテッソーリ教育3～6歳の国際ディプロマを取得し、幼稚園教諭として勤務した経験から、モンテッソーリ教育の教育史上の位置づけと教育思想を史的に理解させ、モンテッソーリ教育法の成り立ちと教育理念を教授する。
10	井筒敦子	保育内容の指導法(人間関係)	2	2	音楽文化学科	専門 選択	講義	長年にわたる幼稚園教諭、園長としての豊富な経験を活かし授業を行う。人とのかかわりに関する領域「人間関係」は、幼児が主体性を発揮し、生活や遊びを通して他者との関係の中で学んでいくものとして捉える必要がある。この授業では、乳幼児期の人間関係の発達について理解するとともに、人と関わる力を培うための教師の役割や環境構成、具体的な指導の方法について学び、保育を構想する力を身につけることを目的とする。
11	河畑明美	指導グレード研究	2～4	2	演奏学科	専門 選択	講義	音楽教室での指導者としての経験を活かし、音楽教室で指導者としての資格を得るために必要な外部の指導者向けグレードテストにおいて、その要求される音楽知識を含む楽典、和声、聴音、伴奏付け等の技術を、実践や演習を通して身につける。
12	品川秀世	室内楽A(木管楽器)	2～4	2	演奏学科	専門 選択	演習	広島交響楽団クラリネット奏者としての実績並びに国内外でソロやアンサンブルなど様々な演奏活動経験を活かし、指導を行う。アンサンブルを通して演奏技術、表現力、音楽づくりのスキルを身につける。
13	林 直之	吹奏楽指導法Ⅱ	2～4	2	演奏学科	専門 選択	講義	指揮者として多くの楽団と共演の経験をもつ教員が指導を行う。授業は「吹奏楽」の講義と連携しながら、“指揮者”という立場でスコア(総譜)をどのように読み込み、いかに技術的・音楽的にバランス良く合奏を作り上げていくべきかを主に実践を通じて学んでいく。演奏者の立場に留まらず、前述した全国数多のバンドを指導する立場になった時、真に“指揮者”として音楽的で心が通った演奏を作り上げられる指導者となれるよう、吹奏楽の指導法について多角的に学習し、即戦力となる指導者としてのノウハウを身につける。
14	折河宏治 平野満 羽山弘子	オペラ研究Ⅰ	3～4	2	演奏学科	専門 選択	演習	オペラ歌手(折河・羽山)、副指揮(平野)、マエストロ・ソステイトウト(平野)としての豊富な経験をもとに、学生たちにオペラ制作にどの様に携わるかを実際に体験させ、アンサンブルを創っていく事により、一人ひとりの個性を尊重し合い、ひとつの音楽社会のあり方を探求していく。
15	小島浩毅	マーチング指導法Ⅰ	2～4	2	演奏学科	専門 選択	演習	マーチング指導員としての豊富な経験と実績を活かして授業を行う。マーチングバンドの教育的意義、構成と演出などを学習・研究する中で、マーチングの活動に必要な基本技術の修得を目的とする。
	合計			30				